

畜産物需給流通関係ヒアリング御協力者の概要

森田 一弘 (所属) ながさき西海農業協同組合
営農経済部畜産振興課
(役職) 課長



【平戸口中央家畜市場の概要】

- ・ 所在地 長崎県平戸市
- ・ 設立年 2003 年 7 月
- ・ 取引頭数 7,088 頭 (2023 年度)
- ・ 年間開催日数 12 回 (24 日間)

【組織の概要・特色】

○平戸口中央家畜市場は、長崎県有種雄牛※が上場頭数の 80% を超える市場。また、当市場が位置する県北地域では、和牛の分娩間隔が全国平均より短く、優良な雌牛の確保に努めている。

※「^{かつのさち}勝乃幸」号の産子は、肉質が良いとされる MUFA (一価不飽和脂肪酸) の数値が高く、発育の良い雌牛については地域内保留するようにしている。

○平均出荷日齢は、雌牛：284 日、雄牛：273 日 (2023 年度)

○OTSV-3 ワクチン (鼻腔粘膜ワクチン) の全頭投与を実施。

家畜市場の再編・統合について

－平戸口中央家畜市場の事例－

ながさき西海農業協同組合

営農振興部 畜産振興課

1. 平戸口中央家畜市場の概要

○市場開催日

毎月21日、22日の2日間（年12回）

○R5年度の取引頭数（黒毛和種）

- ・子牛：7,088頭※
- ・成牛：628頭

※ 長崎県全体の約3分の1を取引しており、
県内4市場の中で最多の取引頭数

○購買者

取引頭数の約3分の2を県外に出荷

<主な出荷先>

佐賀県、福岡県、熊本県、宮崎県、
鹿児島県、兵庫県、滋賀県、三重県、
愛知県、山形県 等



平戸口中央家畜市場の外観



子牛市場のせりの様子

2. 平戸口中央家畜市場の変遷

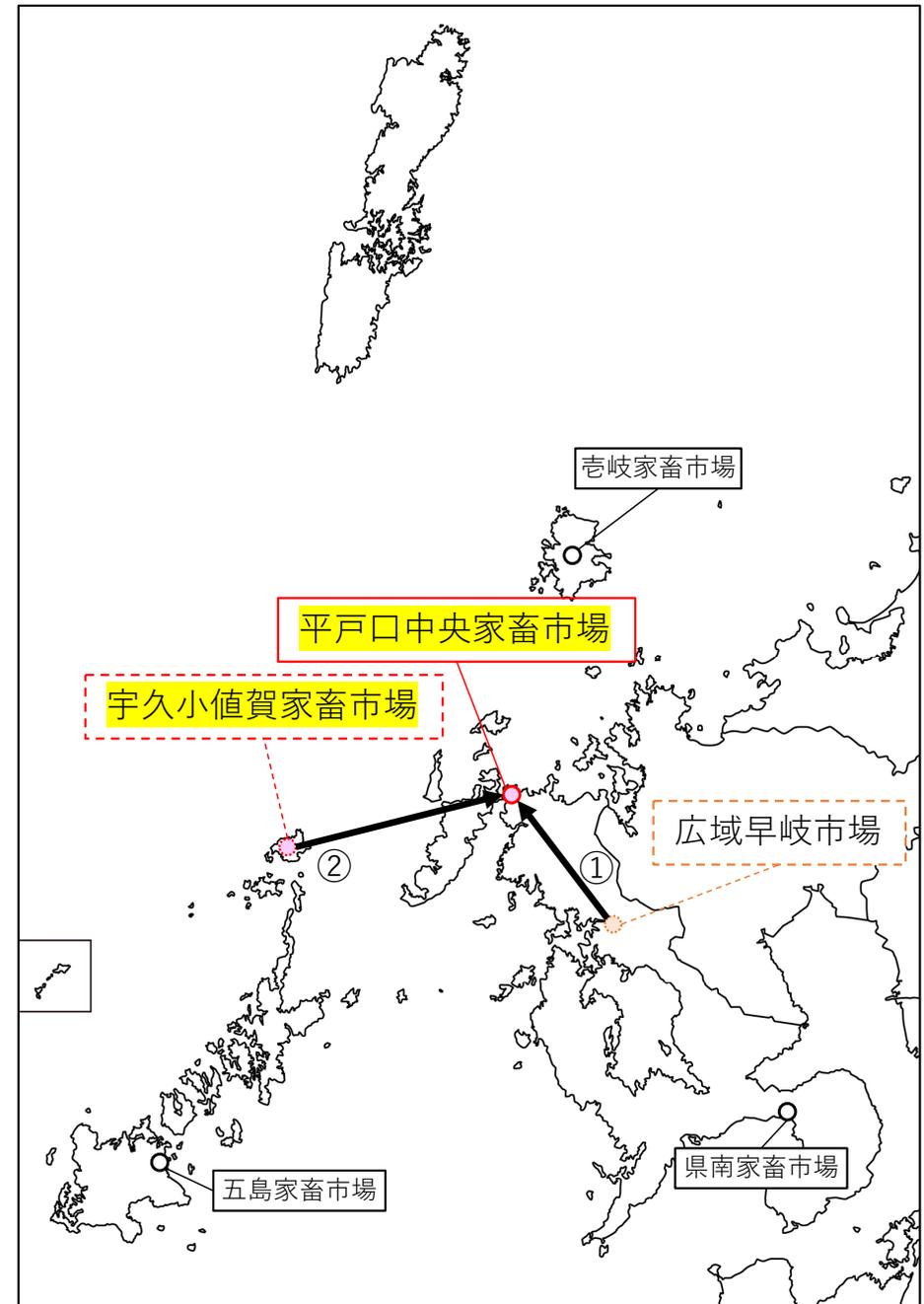
H14年4月：ながさき西海農業協同組合の発足

H15年7月：JA全農長崎県本部の家畜市場がながさき西海農協へ移管
市場名を「JAながさき西海平戸口中央家畜市場」に変更

H18年10月：平戸口中央家畜市場へ広域早岐家畜市場を統合(①)

H21年10月：宇久家畜市場と小値賀家畜市場を統合し、「宇久小値賀家畜市場」を発足

R2年8月：平戸口中央家畜市場へ宇久小値賀家畜市場を統合(②)



3. 統合前の状況

○平戸口中央家畜市場

- ・ 年間8回の市場開催
- ・ 1回の市場取引頭数は350～800頭程度
- ・ 市場が連続で開催される月と隔月で開催される月で、取引頭数に大きな偏りがあり、購買者への供給という点で、安定性に不安があった

○宇久小値賀家畜市場

- ・ 年間5回の市場開催
- ・ 市場1回あたりの取引頭数は300頭前後
- ・ 繁殖農家の減少に伴い、出荷頭数が減少傾向で推移
- ・ 購買者も減少傾向で推移
- ・ 市場施設が老朽化
- ・ 離島市場であるため、市場開設が天候により影響される

< 2市場共通 >

- ・ 毎月開催ではないため、子牛の日齢や体重のバラつきが目立つ
(極端に日齢が大きい・小さい子牛が出荷される等)



宇久小値賀家畜市場の外観

4. 統合による効果 – その1 –

① 出荷頭数の安定と子牛の斉一化

毎月開催となったことで、1開催あたりの**出荷頭数が概ね600頭で安定**。

また、出荷される**子牛の日齢、体重等のバラつきが小さくなり、購買者にとって購買しやすい環境**となり、家畜市場としての魅力が高まった。

< 出荷日齢の目標 >

メス290日・去勢280日以内を目標

【目標を超える割合】

統合前(R元年度)：メス47.6%・去勢33.4%

↓▲13.9% ↓▲4.6%

統合後(R3年度)：メス33.7%・去勢28.8%。

② 購買者の増加

2つの市場の購買者が1つの市場に集まることで、**市場に来場する購買者が増加し、せり取引の活性化**につながった。

< 購買者数の変化 >

統合前後で、購買者数が**概ね20件増加**

4. 統合による効果 – その2 –

③ 市場運営の効率化

特に、家畜市場の施設維持・管理の運営面において、**1つの市場に資源や投資を集約**することで、**効率的な市場運営**につながった。

< 1開催あたりの市場運営費用 >

統合前（R元年度）：1,317千円



統合後（R3年度）：1,920千円

※コロナ対応経費の増

④ その他の副次的効果

毎月開催となったことで、**出荷者・購買者等が情報**（血統等の購買者のニーズ、最新の飼養管理技術等）**を交換する機会が増加し、生産面においてもプラス**となった。

5. 統合までの経緯①

「家畜市場運営の在り方検討会」の立ち上げ

取引頭数の減少、購買者の減少、子牛や取引頭数のバラつき等、それぞれの家畜市場が抱える課題の解決に向けて、平成27年9月に「家畜市場運営の在り方検討会」を立ち上げ。

<検討会メンバー>

- ・ながさき西海農協管内の16繁殖部会
- ・ながさき西海農協
- ・長崎県
- ・佐世保市、松浦市、平戸市
- ・小値賀町、佐々町
- ・全農

※ 主に宇久・小値賀地区の部会全体での検討会が開催された。

2か月に1回程度のペースで開催し、課題解決に向けて議論。

【平成30年10月に検討会で提案】

平戸口中央家畜市場に宇久小値賀家畜市場を統合し、毎月2日間での開催

5. 統合までの経緯②

和牛繁殖部会連絡協議会の開催による合意形成

ながさき西海農協管内は、県北地域3市2町（佐世保市・松浦市・平戸市・小値賀町・佐々町）からなる16の部会があり、和牛繁殖部会連絡協議会を組織。

この連絡協議会の場を活用して、「家畜市場在り方検討会」で提案した家畜市場の統合案を丁寧に説明し、関係者の合意形成を図り、統合に向けて解決すべき課題を整理。

【家畜市場の統合に向けて解決すべき課題】

- ① 宇久小値賀家畜市場に出荷していた生産者は、平戸口中央家畜市場に出荷することになるため、市場が遠くなり輸送経費の負担が増える。
- ② 平戸口中央家畜市場は、遠方の宇久小値賀地域から出荷される子牛を市場開催にあわせて円滑に受け入れる体制を整える必要がある。

5. 統合までの経緯③

統合に向けて解決すべき課題への対応

課題①：統合により家畜市場が遠くなる出荷者への対応

統合によるメリットは、出荷者全体が享受することを踏まえ、出荷者全員から一律の負担金を徴収してプールし、それを財源に離島の宇久地区、小値賀地区の出荷者に輸送費を助成。

※ 離島から本土の市場に出荷に対する国の支援（輸送費の一部助成）も活用

課題②：遠方から出荷される子牛の円滑な受入対応

キャトルセンターを整備し、宇久地区・小値賀地区から出荷される子牛をいったんキャトルセンターで受け入れてから、市場開催日当日に市場搬入することで、円滑な受入を実現。

※ 宇久地区から直接市場に搬入される場合は、市場開催2日前に受入れ
小値賀地区から直接市場に搬入される場合は、市場開催前日に受入れ